第１回みらいミーティング会議報告

１　日時　　令和６年８月１日（木）18 時 30 分～20 時 30 分
２　会場　　くらしき健康福祉プラザ　２０１研修室
３　テーマ　災害に備えるまちづくり
４　参加者　くらしき防災士の会
５　いただいたご意見

○会長	失礼いたします。着座のままで、すみませんよろしくお願いいたします。私たちくらしき防災士の会、設立して10年になるところでございます。平成26年の4月から設立委員16名で、最初は、倉敷市防災士有志の会ということで、発足いたしました。先ほど、シャツが2種類あったと思うんですけど、最初は有志の会ということで発足いたしました。26年の8月の2日に設立総会を行いまして、最初は防災士41名でスタートいたしました。平成30年の4月になりますが、ここで、今のくらしき防災士の会ということで、会名を変更いたしました。当時はまだ私たちも手探りのところもございまして、なかなか外に向けての啓発活動、なかなか十分にできていなかったところではございますが、その当時、平成から令和にかけて、活動をしていたことの内容といたしましては、会員の地元ですね、それぞれの会員の地元で、避難訓練の参加でありますとか、防災訓練に参加したりですとか、防災講座の参加、そういったものが主なものでした。その当時から倉敷市の主催する総合防災フェアとか、そういった方にはもうずっと参加させていただいているんですけれども、なかなか外に向けての発信というものができていなかったのが現状かなというところでございます。令和になりまして、令和元年ですね、ここでちょっと役員の変更がございまして、そこから活発な意見を出してくださる方に入っていただいて、皆さん挙手をして、中の雰囲気もだんだん変わってきて、活動もだんだんに活発になってきました。活発にしようと思っていたところで今度は、コロナですね。コロナで2年、3年、3年は特に計画はしっかり私ども、させていただいたんですけれども実際にするときになると、やっぱり中止せざるを得ないという形で、3年はなかなか活動ができなかったんですけれども、そんな中でも3年はですね、阿津の防災倉庫の見学に行きましたりとか、HUGの研修をさせていただいたり、初めて地域の、総社市の方の防災士さんの研修会にお招きいただいたので、そこに数名参加させていただいたりということで活動しておりました。 令和4年になりまして、4年から倉敷市の市民企画提案事業ということで、採択いただきまして、そこから資金面でも大分潤ってまいりましたので、いろいろな計画ができてまいりました。まだコロナは収束をしておりませんでしたが、換気とそれから消毒に留意し、活動を再開いたしました。講演会とか出前講座7回、イベント19回の研修会13回ということで、1年間の活動をさせていただいたんですけ

	れども、その集大成としてですね、地域の防災リーダー育成研修会をさせていただいて、「守ろう地域・取り組もう防災」と題して、自主防災組織をこれから結成しようという、地域の方、自主防災作ったんだけど、これからどんなふうにしていったらいいかちょっとわかんないんですよねっていう、そういう方を対象に、ライフパークの大ホールの方で、防災講演会とパネルディスカッションさせていただいて、中ホールの方で展示を中心にさせていただきました。防災活動の事例紹介ですね、それから、防災情報の紹介、防災用品の展示、そういったことをさせていただいております。このグラフが、創立平成26年度から今年に至るまでの会員数と、それから収支のグラフなんですけれども、私たちは、会員さんから、年会費で1，200円いただいてるんですけれども、その1，200円で、なかなか十分なことができなかった感じのが、グラフの半分、左の方ですね、なかなか、何かこう改良しようと思っても、資料を作るには、コピーの用紙がいる、インク代がいる、という形でなかなか十分できないんですけれども、令和4年からグラフがぐっと伸びているように、先ほど申しました倉敷市の市民企画提案事業、こちらの方で、補助金をいただきましたので、それでしっかり活動していっているんですという、情報がこれになっております。 こちらが令和5年度なんですけれども、活動の様子写真をちょっと4点ほど挙げてみました。中島の自治会館での研修、ライフパークでの研修会、防災の日というのがあるらしいんですけれどもそちらの方に、当日行かせていただきました。それとライフパークでの研修会ですね、これはやっぱり自主防の関係の方が中心に参加していただいております。で、令和5年ですね、4年度までは先ほど申し上げた通りで5年からは、市民計画提案事業の2年目に入りましたので、私たちの活動もだんだん、脂がのってきたと申しますか、だんだん良く分かってきて、研修会の実施も4回、地域の防災活動支援が44回、これは各地域の、倉敷市の防災士なので、倉敷中心部、水島、児島、玉島、真備、皆さんいらっしゃるので、そちらの方面、それぞれの活動がありますので、こういった形になっております。イベントの実施とそれから、あとは参加ですね、大きなところで玉島のハーバーフェスティバル、くらしき防災フェアと参加してまいりました。これがですね、一番に良く分かっていただける図だと思うんですけれども、この青いところが、依頼されて、こちらから出向いていった研修会とか講演会とかっていうことなんですけれども、やっぱり右側の後半ですね、4年、5年、が大変伸びているかと思います。前半左半分の方は、黄色い部分ですね、外部からの講師さんを招いてする、私たちの会の内向的な研修が多かったんですけれども、やっぱりここ1～2年でずっとやっぱり外向きに皆さんに発信して皆さんに防災ことをわかっていただかないといけないですよねっていうことで、今はもう外向きの研修のみ心がけて、私たちは取り組んでおります。

	この他にも、現在もしておりますけれども、他団体との交流も大切ですし、行政との継続的な関係を、維持・構築していくこともこのままずっと続けていきたいと思っております。私個人といたしましては、学校での教育は大変重要だと思っております。やっぱり大人への意識改革は大変難しいですけれども、子どもたちはとても素直に受けとめて、興味を持って話を聞いてくれます。子どもたちからの発信で家庭での防災、減災の意識づけのきっかけになってくれたら、いいかなと思っております。これからも私たちの防災士の会は、防災推進課様と協力しながら、暑さにもめげず、地域に寄り添う活動を続けていきたいと思っております。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
○会長	今日はお仕事の都合で欠席しております、A さんの提案を代読させていただきます。個別避難計画については先ほど市長さんも言われていましたけれども大変重要なところになっているかと思います。これも個別避難計画の現状を把握するために、全市的な進歩状況をご提示いただきたいんですけれども、よろしいでしょうか。 A さんの改善点検討課題といたしまして出されていたのが、個別避難計画の作成支援アドバイザー。地域防災作成支援アドバイザーというもので、市内の防災関係者の中から優先して、優先したアドバイザーは市長からの委託認定をしてもらうという形で、そういうふうな講師登録のような形ですね、市の方にそういう相談、ご依頼があったときに、対応可能なアドバイザーを派遣して対応していったらどうだろうかということを、言われてました。
○市長	今ですね、個別避難計画、まだ非常に難航しているところです。個別避難計画の対象になる方ですね、今、大体市全体で3，100名強ぐらいいらっしゃる状況なんですけれども、民生委員さんとか、地区の自主防災組織の方とかに、名簿の方を、お願いしてどういうふうにアプローチしていただいてるかという中で、自分が100％責任を持つのがやっぱりちょっと心配だというところもありまして、その対象者の方の3，100人ぐらいのうちの50人弱くらいしか、まだ進んでおりません。例えば先ほどのような、書いていただく内容の困難さのところについてどういう改善をすればいいのかとか、またその例えば、名前を書いた方が100％その責任を負うわけじゃない、これはもうみんなで一緒に支えていくところはむしろ家族の方を中心としてというところなどとか、それからどういうものをつくっていくんですよっていうことなどについて、最初のマニュアルがちょっと非常に難しくて分かりにくかったということなどもありましたので、それを改良して、皆さんの方にお渡しをして、またそこから今頑張っているという状況でございます。そのあたりのところの皆さんの受けとめとかも今日ぜひ一緒にお話をしたいなというふうに思っていました。 アドバイザーの活用の仕方というところなんですけれども、調べている中で、アドバイザーの方は主には自主防災組織とかに、その支援に伺って、そして、現状とかこういう個別避難計画とかの作り方について、指導いただくということで、うちも活用できる部分はできれ

	ばいいなとは思ってるんですけれども、ただその方というのが、地域のことをすごくよくご存じの方がどうかっていうこともまた問題で、課題はあるんじゃないかというふうに思っているので、まずその制度としてのアドバイザーというのも活用できる部分は、すればいいかなとは思うんですが、ただ、まず、本当に今日、皆さんの方から、どういうところの課題が大きいのかなっていうところをぜひ教えていただきたいっていうのが、今の私の状況です。
○B さん	玉島の○○地区の B と申します。ちょっとしゃべらせていただきます。出前講座の開催で、住民の意識向上、平常時の防災活動の充実、シナリオ避難訓練を今年初めて自身の自主防災組織で、3月に実施して、手応えは感じたんですけども、参加住人が限られておりまして、南海トラフ地震が本当に起きたとき、逃げ遅れを懸念するもので不安があります。今後も自分たちで出前講座を何回も繰り返し開催して、意識向上を図っていきたいというふうには考えています。一方で、例えば同じ小学校区の中で、活動がされていない地域というのもあると思います。そこで橋渡しや、支援メニューを見える化して示していただくなどの協力をお願いしたいというふうに考えています。
○市長	今、B さんが言っていただいたように、この自主防災組織を作っていただいている会っていうのが、地域によって実際割とバラバラだと思います。どの規模の地区で必ず作らないといけないっていうことはないんですけれども、その一番身近な単位の町内会のところとか、広いところはもう学区全体とか、コミュニティに近いようなところを作っていただいたりしてるっていうことで、大きい単位もちっちゃい単位も、それぞれの良さとなかなか難しいところもあるかと思うんです。市の方としてもその学区単位での把握っていうのをちゃんとして、どこができましたとかじゃなくて、ここが作ろうと思ってる、でも、既にできているとこと、一緒に連携してとか、共有してっていうのをしたいなというふうに今思いました。ありがとうございます。
○Cさん	今年度、倉敷総合防災活動推進の声を、より大きく発信されたんですよね。これをつぶさに感じたのは、各教育機関、幼稚園小学校中学校高校、もう各学校にいろんな意見を聞いて回ったんです。これは本当に思ったので、これひとえに市長さんの号令がなせる業だと感じて大変うれしく、力強く頼もしく感じました。本当の話です。市長の号令があったことでその反響を各教育機関の防災授業に参加させていただいた折、多くの先生方よりお聞きしました。実際にね。ただ必要性を感じているのですが、園児や子どもたちに教える前に自分自身の知識、技術がそのレベルにあるのかという不安の声も聞かれました。防災教育は大事な命を守る教育で、必須と私は理解して活動に取り組んでいます。くらしき防災士の会を運営されている方々は幅広い知識や技術を持ち、かつ、年齢や性別職業の枠を超えて一人でも多くの方々を救いたいとの気持ちで、自主的に活動されている組織です。もっと、倉敷市と連携、コミュニケーション強化で活動の幅が増えると思います。市長の後押しをお願いしたいと思

	います。防災の基礎ができているため、言いたいことは言う、できることは何でもする、人任せにしない。応援を頼める仲間がいっぱいいます。地域防災組織としての持ち場、立場を理解する活動は市民の賛同を得て毎年増加しています。くらしき防災士の会を運営されている方々の考え方を聞き、行動を見るにつけ入会して私は良かったと、どこでも言ってます。これからも倉敷市やくらしき防災士の会をよろしくお願いします。以上です。
○市長	私の今期の公約の一番が「災害に備えるまちづくり」としたので、そこを所信表明でも言ったところです。具体的には、令和2年度から小学校の3年と5年生に防災教育で、令和4年度から中学校2年生、防災教育をカリキュラムで3時間以上ずつお願いをするということで始めていまして、それ自体は、良かったとは思ってるんですが、C さんの言われるように先生の方も、その中身自体ですね、もちろん教育委員会の方からマニュアルのようなものは来てるんですけれども、やっぱり防災士の方のように防災特有の教育っていうのを、研修とか受けられてるわけじゃないので、先生たちも不安の中で、お話をされたりしてるということがあるのかなっていうことは、教育委員会の方からも聞いておりました。そんなこともありましたので、7月の、初任研修、採用新しく教員になった人が受ける研修でですね、防災の方が講師になってみんなで受けるというのを今年度から初めて始めまして、それは良かったなとは思ってるんですけど、ただ、新任の人だけじゃなくて、校長先生とか教頭先生とかも、受けてもらわなきゃいけないことだなというふうに思ってます。やっぱり何と言ってもいざというときに住民の方が逃げ込んで来られるのは学校なので、それを全員で共有できるような形にしなきゃいけないなというふうに思っております。
○D さん	今回は災害弱者、特に将来を担う学童が、発災後も通常に近い学校生活をしてもらいたいため、提案いたしました。学校全体を避難所に開放するのか、一部の箇所だけを開放するのか、状況の度合いにもよりますが、開放区域の明示と許容人数の開示をお願いいたします。理由といたしまして、各種防災活動において数値がありましたら具体的な説明が可能で、避難所は学校避難所だけでは許容不可であり、別避難方法への理解活動にも役立つと考えております。以上です。
○市長	避難所の区域と人数のところなんですけど、そうですね、まずさっきもちょっと申し上げたように、今、どの災害が起きても、どこの小学校にみんなに逃げるということが大体頭の中に入っていると思います。まずは、当然体育館からっていうことになります。でも当然大きな災害になったら体育館だけじゃ全然足りなくなるので、そこから教室の方を開放していくという形とか、それから体調が悪い方の場合は、区画を区切って、ここは体調の悪い方の部屋とかっていうこととか、あと、学校によってはそのペットと一緒に避難される方もいらっしゃったので、そのペットと同伴のところっていうのを設けたりっていうこともしました。

	そうですね例えば岡田小学校のときにですね、実際体育館だけだったら普通ならば200人ぐらいの人数なんですけど、高台の学校がもう、岡田とあと二万くらいしかなかったので、もう何千人も逃げて来られたんで、でもそれは、逃げて来られて絶対良かったと思うんで、ここで、じゃあその例えば、800人しか逃げられませんとかってそこへ行かなくなってもまた困るかなっていうふうに思いますので、そうですね一応体育館ということは明示しつつ、来られて後は教室の開放を随時していくっていう感じかなとは、今のところ思っております。
○E さん	家が茶屋町で、茶屋町の学童の運営委員長っていうのは 15 年ほどしまして・・・・・○○小学校の方におかれまして、一支援員で頑張ってるんです。実は学童にはその備蓄は何にもありません。4時以降に子どもを例えば預かってますけど、親が来られなかった場合でも役員が、本当に備蓄のものすらそういう援助が全くありません。幾らかの備蓄、それから、親との連絡がうまく取れる方法なんかをもう少し倉敷全体に広めていただけたらと思います。 親との連絡を取れる方法しては、LINEっていうのをやってますけど、来れないんですね。要するに仕事で迎えに来れない。避難災害のときに、そういう残された子、私らはどういうふうに守るんだろうということで、援助をお願いをしたいなと思いました。
○市長	そうですよね。なるほどですね。今後、国の方のいろんな子育て支援のメニューとかの中にですね、それこそ入れてもらって準備をしたほうがいいような感じの内容ですよね。これから考えなきゃいけないと思います。確か今年の 11 月に学童の全国大会をしますよね。その時にたぶん、○○を始めとして倉敷の学童が多分全国の人から期待されたり聞きたいと思われるのは、真備のような大きな災害があった時の子どもの預かりをどうやってみんながしたとか、こういうのが良かったとか、課題がこういうのがあったとかということなのかなと、今の話を伺って気づきました。発表の方お願いします。ありがとうございました。
○F さん	学校、小学校、中学校、高校というふうな学校教育の中で、防災に関して我々防災士がいかに関わっていけばいいのかということなんですが、令和4年の7月に、倉敷市が作成されました、生涯にわたり、防災について考える大人、このことを目指して各小学校でしたら、まず、防災安全マップを作るだとか、マイタイムラインを頑張って作ってみようだとか、1年間の中に3回の授業の中で、我々が全部の時間を、担当できないと思いますので、そういう中で防災士がどういうメニューをつくっていくかというのを整理して、危機管理室と、我々とか、共通したテーマテキストを作るというふうなことが大事なのかなというふうに思います。単純に言いますと、今、子どもたちが過去に、地域で起こった災害のことを知らないです。その親御さんも知らないです。知らないということは、経験がないので、危機に関する危機感が全然ないんですね。ですから、逃げるということに対して、無頓着になってる。ですから、その地域の災害っていうものを掘

	り起こして、我々も子どもに教えられるようなテキストをデータベースで作って持っておく必要があるのかなというふうに思います。その中で、データとしてなかなか無いケース等もございますので、その辺なんかも含めて整理していく必要があるので、その辺はどうしてして作っていけばいいのかなというふうな懸念もしております。
○市長	現在の防災教育では、F さんおっしゃったような過去の災害のことについてのことを詳しくっていうところまでまだいってないかなというふうに思いました。過去の災害のことも知れば、将来の災害とかの備えっていうこともわかってくるかなと思いましたので、過去の倉敷市内で起こった災害のこととかについても勉強してもらう中に入れていくようにしたいなと思いました。
○G さん	避難行動要支援者、直接福祉避難所に、避難できるような仕組みに、再構築していただけないかと言いますか、それを検討をお願いしたいと思うんですが、今一時避難場所として指定避難所に連れて行って、そこで福祉施設がそういう体制になっているかどうか確かめた後、福祉避難所として連れて行ってもらえるという、そういうシステムになってるんだと思いますが、それを直接ですね、福祉施設の方に連れて行けるような、そういう仕組みにならないかなと考えています。施設の方もそうなんですよ。どこにあるかどうかもわからない。ただ、支援する側としてはですね、これ誰がどうやっているから、可能ならば、この人が、この福祉施設とですね、1ヶ所2ヶ所。あれを決めておいてですね、当日といいますと起こったときに、連絡しながらですね、そこに直接行ければ、迅速に行ける気がして、はい。どうですか。
○市長	今確か四十数ヶ所と福祉避難所っていうことで協定を結んで、その特別養護老人ホームさんとか、お願いをしてるわけなんですけれども、今の状況は今 G さんお話されたように、まずはその小学校とかの指定避難場所に行っていただいて、そこでこの方はなかなか皆さんと一緒に避難生活を送ることが難しいという場合に、福祉避難所の方にという形になっております。この理由というのが、一つは、福祉避難所があまり大量に受け入れるのがなかなか体制が難しいという思いを持ってらっしゃるのが一つと、それともう一つは、今まさに個別避難計画ですね、今から取り組んでいくということなんですけど、福祉避難所の方も、大体どのぐらいの方が自分の近くのところで、そういう必要な方になるのかがわかってないっていうこともあって、自分の許容量っていうか、それを超えるかなという思いもあるというふうにも伺っているところもあります。個別避難計画の今後の進み状況にもよって、この方はもう直接福祉避難所に行っていただいても、そちらのほうがいいという方も、だんだんと見えてくるのではないかなというふうに思ってます。
○H さん	倉敷市広報に6月号に掲載されてました災害に備えるまちづくり、について質問させていただきます。地域防災計画及び個別避難計画の促進を書かれておりますが、地域の人が安全かつ安心して活動できる体制が不可欠ではないかと思います。個別避難計画を曲

	がりなりにも私も何人か作ったんですが、一応、支援センターとか介護施設と話したんですが、１人に何人も持たれてる訳でその人に関わるわけにはいかないということで、デイケアに行っとるときは、もう家へ返すなと、それだけでいいから、もうその対応だけはして、くれるようにいうことでしかできないんです。そうしたことで、ご近所さんに頼んで、一応作りました。地域の人が携わる場合、安全、及び安心して活動できるように、逃げおくれゼロを目指す体制づくりが必要ではないかと思いまして、高台のある公園、それとか、土砂災害の恐れの少ない山際を整備されまして、緊急避難場所をつくったらいいんじゃないかと思っております。その場合火気使用、マンホールトイレ等設置していただければ、いいんじゃないかということで質問をさせていただきました。以上です。
○市長	避難していただく場所は、高台の小学校とか高台の中学校のところを基本にしながらですね、例えば物資とかは、山陽ハイツの跡のところとかだと、かなり大きな場所にもなるんで、それこそ自衛隊のヘリとか来てもらっておろしてもらうのもできるかなとは思うので、今後、真備の公園のところもそういうふうにしたんですけど、大きな公園とかではドローンとかも盛んになっているんじゃないかと思うので、そういうのを使って物資を持っていったりもできるようにはしようとは思っています。市が公園とかを新しく高台の公園をリニューアルするときには、少しでも逃げていただきやすいような観点のところはなるべく取り入れるように、頑張ってみたいなとは思います。
○I さん	小田川合流付替え工事後、高梁川下流への影響、付替え工事が完了して合流点の、地域では、水害の懸念があります。逃げおくれないように避難すれば、助かるという、安心のできる情報の提供をお願いします。河川の氾濫とか、決壊というのが合流点の周辺で、割合多く、発生しているという資料がありまして、その辺のところで、真備の工事ができ上がってから、今後は安心という認識も、おきやすいと思うんですけれど。合流点の下流におきましては、6年前の洪水のときと同等の水が来ても、今後は、合流点より下流へは、従来よりは多い水が流れてという現実が起きると思う。それの対策と情報の周知を徹底していただけないだろうかということです。 旧霞橋は橋の通行できる高さと、堤防の高さが同じで、中ほどは1.2 メーター、両端、近いところは 1.5 メーターほどある。水かさが上がってきますと、堤防の、上面へ届く前に届いて、あふれるようになりやすいので、あれを特にどこら辺まで水位が上がったら、避難を開始すべきかいうのが具体的に認識できるようにしておく必要があるんではないかと、思っています。
○市長	小田川合流点付替え工事後の、新しい流れ込みがあるところについては、危険だったら困るというのがありますので、その対岸のところの片島はじめとする地区、それからもちろん船穂側を含めて、安全についての国に対する様々な確認もしております。大丈夫なように計算をしてやってくれてると思っておりますので、一つは大丈夫だと思っております。ただ、100%っていうところはどこでもないので、

	片島側とか、船穂側と新しい流れのところになった地域の方に対しては、より気をつけておいていただくっていうのは、啓発していきたいなというふうに思っております。旧霞橋のあたりのところについては、私もあまり詳しく聞けてないので、国交省とも相談したいと思います。
○J さん	日ノ出町に住んでいる J です。はい、お願いします。災害に備えるまちづくりっていうのを進めてるということで、我々も紹介して、できることをやっていこうと。一つお聞きしたいなと思ったのが、地域を、何か地域だと。住民ということで、今こういう会をしてるんです。倉敷へいっぱい観光客が来てるんですよね。この人らにはどうやって、アピールしたらいいんだろう。いうようなことで、市の対応というんですか。そこをやると、もっともっと観光客が来るんじゃないかと。アピールできるんじゃないかというふうなことで、そういうことも一つやってみてはという提案をさせてもらいたいと思います。 自主防災会つくって、講習をやってるところっていうのを今どんどん増やしています。宿泊施設、そういう外国人の宿泊施設も何かそういうことで、知ってしてもらうようするのが必要なんじゃないかなと思います。
○市長	観光客の方で日本の携帯を持ってらっしゃる方はいざというときに、避難情報とか出た場合には、スマホに情報が出ます。文字だけ見ると、どこどこ小学校に逃げてくださいって言われても地域外の方はなかなかわからないかなと思うので、倉敷市が 30 年の豪雨災害の後に、新しくしました防災ポータルっていうのがありまして、災害が近づいてきたら見えるようになってて、そこで今いる場所から何とか小学校というところまで逃げようと思ったらどの道を行けばいいですかっていうの押したら、道筋ができるような機能を入れています。 一応ホームページとかは、ちょっと何か国語か忘れたんですけど、日本語と英語、確か韓国と中国ぐらい（正しくは全部で 11 か国語に対応しています）は入れたかなと思います。また、海外の人が泊まれるような宿泊施設で、例えばチェックインのときとかに、いざ災害が起こったときには、例えばこれをこう読み込んでくださいとか、これを見といてくださいみたいなの、渡すと倉敷旅行したら安心よと思っていただけるということですね。いいアイデアありがとうございます。
○K さん	平成30年、2018年の西日本豪雨で、被災しました。その際には、防災士の方、倉敷の方、大勢の方に応援いただきまして、非常に感謝しております。その後いろいろな意見交換会、説明会。改修事業等の説明と、たくさんしていただいてですね。短期間にたくさんのことができました。これも市長のお力添えですね。国からたくさんのお金を引っ張ってきていただいてですね。やっていただいてありがとうございます。感謝してます。いろいろとハード面できたんですけど末政川、髙馬は改修工事、水路改修したりですね、道路つけかえたんですね。それから、公園、小さな公園とかいろいろと附属設備たくさんつくっていただきました。それに対して点検とか環境整備とかそ

	の後の利用、状況とか、それを皆さんが地域の方が安心して使える場所にするといいますか、形はできたんですけど、例えば公園ですけど、ただ広場があるだけであって、何もないとか、誰が利用すりゃいいとか、わからないところもあるんです。そんなところがこれからの課題だと思うんですけど、行政の方が力を入れていただいて、皆さん気軽に楽しく使える場所なんだというのを点検しながら、見直していただくという作業をこれからしていただきたいと、できたんだけどできた後のことについてはまた説明を意見交換会をするとか、そんなことをされることは、いいんではないかなというようなお願いですかね。
○市長	今のお話は災害後に、また新しくできたようなもの、いろんな使い方とかについても、もっとみんなで共有したほうがいいんじゃないかっていうこととかですね。そうですね。今のところ付替え事業とか、この前の真備ふれあい公園とか、大きい分とかしか、大きく皆さんにPRできてないからですね、地域の中でもこれまでと道が変わったり、例えば、災害公営住宅でも、3階建てだけじゃなくていざというときは3階のここに皆さんがばっと集まれるような場所があるとか、そういうのもまだ知らない方とかもいらっしゃるんじゃないかと思うので、屋根の上とかまで逃げられますとか、そういうことがもっとお知らせしないといけないなというふうに思いました。それと私が特に真備の皆さんに今後徐々にぜひお願いしたいというふうに思っているのが、直近で、倉敷市の中でも、本当に大きな災害を受けてそこからみんなで復興してきたという状況なので実際真備ふれ合い公園とかにも、だんだん視察とかも増えてきてるような状況で、真備の皆さんの話を聞きたいと思っている方が、だんだん増えてきてるように、とても感じてるんです。もちろん、市内には児島や玉島でも大きな浸水被害もあったわけですしいろんな他の被害もあるんですけど、ぜひだんだんでいいんですけど、災害のときの経験をみんなで共有するという意味で、こういう準備をもっとしなきゃいけないとか、もうちょっとこうしてたら、こうだったかもしれないとかいう話もみんな聞きたいなというふうに思っていると思いますので、いろんな準備もしないといけないですし、みんなで情報共有しなきゃいけないかなと思っておりますが、ぜひそういう面も、またご協力お願いできれば一番ありがたいなと思っております。ありがとうございます。
○L さん	□□学区で、自主防災組織の設立支援とか活動支援を実施してます。まだなかなか難しくて、□□学区に 12 の町内会があるんですが、6つは、自主防災組織ができたんですけど、残り6つがなかなか難航してるという状況です。そういう中で、自主防災組織を再編成したらどうかという提案です。倉敷市の自主防災組織は、現在の町内会で運営する制度になってるんですが、現在の運用制度には課題があります。一つは、町内会に加入していない世帯っていうのがかなりあるんですけど、彼らは自主防災会に参加しづらいっていう2つ目は、そもそも町内会がない地域っていうのがありまして、当然そこには自主防災会もないということになります。それから3番目

	は、規模の小さい町内会っていうのがあるんですけど、そこは人材不足で、立ち上げてはみたものの何年か経ってその方が高齢になって引退されると自主防災活動がもう停止してしまってるっていうふうな状態です。これらを解決する方法というのがないかなということなんですが、まず自主防災会組織をですね、全市を網羅する形で、全市全部ですね、これは隙間なく作る。ていう形でですね、再編成するっていうことがやっぱり必要なんじゃないかなと思います。他の行政ではそういう形になってますね。ところが倉敷市はそうなってないもんですから、隙間があるところで、新しい自主防災を作るっていうまず不可能なんですね。そういうことがあります。全部が網羅されればですね、全市民が、いずれかの自主防災会組織加入できるっていうことになりますんで、ある程度強制力を持って、自主防に入って欲しいと。ていうことができるんでは、現状を大きく改善できると思います。ぜひそういうことも含めてですね、検討いただきたいと思います。 学区というとやっぱり大き過ぎるんですね。そうです適当な規模感っていうのがあると思うんです。例えば私民生委員やってますが、例えば民生委員の定員というのは、倉敷市では704名ですね。で、そこは隙間なくできてるわけです。例えばそういう形。その民生委員の任命というのは、やっぱり町内会を母体として、町内会の推薦。というのが多いんですね。それは町内会そのものが、ちっちゃな町内会もすごい多いんですよ。そういうところだと、幾つかの町内会で民生委員を1人出すと。ていうふうなことを現実やってる。例えば、そういう単位、すれば、自主防組織が民生と一緒だったら、700組織分であれば全部網羅できるわけで。次は、ある人は、自主防に入りたいけど、自分が町内会に入ってないから、自主防に入れてもらえない。という現実。それから、私なんかやってるのが、ある区域は、自主防災組織を結成して欲しいんだけれども、それを結成する手段がないんです。はい。これ最大の理由はですね、お金の問題です。町内会ですべてのお金を出しなさいっていう制度になってます、倉敷は。だから1円もらえないわけですね、作っても。だから、町内会もそんなもん作っても面倒くさいだけやろうというのが現実です。だからそこのところは網羅的にやって、例えば他の行政がやってるように、例えば1年間に1世帯当たり 150 円出すとか、そういう形で、町内会以外のお金をいただいて、ちょっとした防災訓練ぐらいはできると。ていうふうな形にしてもらえると、町内会の負担も少なくなって、町内会以外の方たちも参加しやすいということになるんじゃないかなと私は思っております。
○市長	はい。ありがとうございました。確かに今おっしゃったような民生委員さんの担当してる区域ごとに個別避難計画とかをつくるのとも合致するので、確かに考え方としては、現実問題としていい考えなのかなというふうに思いました。もちろん学区で作ってあるところもあるんで、それも地区によっては、その形がいいんだと思うんです。防災組織を作るとまずはお金はすみません来ないんですけど、その

	最初の立ち上げのときとか、それから5年後とか、それから、地区の防災計画をつくっていただいときとそれで今回の 15 年目では機材とかも古くなったときに、新しくするような制度も作ったので、すみませんお金が直接行く制度じゃなくて申しわけないんですけれども、徐々にいろいろ何かこう改善ができればと思っておりますので、はい。貴重なご意見いただきましてありがとうございました。
○M さん	防災士の会の副会長させていただいております。あまり時間がないので手短なんですけれど、先ほどの話ずっと聞いてきてですね、防災の取り組みのベースはまちづくりというかその地域がちゃんと機能してれば、防災が非常に活動しやすいということなので、どうまちづくりをしていくかっていうのが非常に重要だと思っております。非常に概念的な抽象的な話なんですけれど、伊東市長がですね、まちづくりにおいて大事なとか、これまでですね長いこと市長さんをされてきてですね、倉敷のまちづくりが今どうあるべきかとかどう今なっているか、これからどうしていきたいかっていうふうな、そういう、まちづくりで町内会に対する、イメージとか後、町内会に対する応援のようなメッセージがいただければ、我々防災やる上では、地域を見ていただいているってのは非常に助けになるというか、励みになりますので、市長の考えているまちづくりですね、地域をどう活性化していくかっていうところの、防災とは外れるかもしれないですけど、そこを聞きたいなと思ったのでお願いします。
○市長	今 M さんお話されたように、やっぱり地域の活動が日頃から活発なところっていうのは、自主防災組織とかいろんな活動にも早く取り組んでいただきやすいとか、ただ地域の町内の若い方とかもいろいろあって、組織がいろんな違うところがあるとなかなか進みにくいっていうこともあるかと思うんですけど、概してはやっぱり地区の繋がりが強い。いろんなところにお伺いする中で、学校で夏の祭りとかを地域の方が一緒にされると、時には町内会に入ってない方ももちろん来られます。そういうところでいろんな繋がりができたりとか、ブースを出していただいたらこういう活動してるんだなとかっていうのが見えて、自分もちょっと入ってみようかとかもしくはいろんな活動に参加したいなっていう。子どもの活動もそうだと思いますし、大人の地域の親父の会だったりとかいろんなこともしていただいたりするので、そういうところあると、いざというときにその地域の繋がりとかが一番大事になってくるんじゃないかというふうに思っています。防災士の皆さんは本当に、地域の中での活動前からしてくださってる方ばっかりなので、そこがやっぱりおっきなまちづくりに繋がっていくなというふうに子育ても健康長寿のまちづくりとかを全部含めて、そういうふうに思ってます。
○N さん	事務局をやっております。はい。今日皆さんですね、みんながいろいろ対応していただけるという会になったなあと、私 M 君と一緒で十年ちょっとありますけども最初に、この会を立ち上げたメンバーでございますけども、ここまで成長したのかなと思って感慨深いものでございます。そうは言ってもですね私どもは会の役員ということもあ

	って、日ごろ研鑽しておりますけど、実際倉敷市が26、5年ぐらいから、養成者はすでにもう500人を超えていると思います。もちろんその受けるにあたっては、自治会ですね。町内会長さんから申請をいただいてお墨付きをいただいているわけですけれども。実際には今、例えば私どもの研修会したときにですね、ご高齢になってですね、なかなか防災士が動いてくれないというのがあります。ですからぜひ今、養成講座の内容が大分変わってますし、気象条件も変わってますので、平成26年度当たりとですね、防災士の方は、特にですね、もう一度、今の防災教育がどういうふうになってるのか、防災養成講座の内容はどうなってるかっていうことで一度、レベル、スキルアップしていただいてですね、ある程度、500人ぐらいをもう一度登録し直してですね。これきっちり研修をして、更新をしていくと、そのついていけない人はもう更新できないっていう形にして、とりあえず各自主防の中で必ず防災士は1人か2人いますので、地域の方の命を守る活動をですね、ぜひ町内に向けてできるような、そういう防災士のスキルアップをですね、ぜひ図っていきたいなというのが私の希望でございます。
○市長	私もそれが大事だなと思っております。コロナのことや真備の復興に注力したりとかという事もあってなかなかそれぞれの活動もしにくい状況もあったりしたんじゃないかというふうに思います。それから今度は防災士の方の活動っていうのも、全国的な災害もあって内容も変わってきたりしてるかと思いますので、これまで防災士の資格を、市の登録の部分でとっていただいて研修を受けて取っていただいた方は、最初言われたように町内の自主防災組織とか、会長さんの方から推薦をいただいて、受けていただいてそれで研修を受けて、それで、ある一定の方が、テストじゃないですけどそれを受けていただいて、受かった暁には、地域の防災ですね、自主防災組織の結成とか、いろんな活動をしますっていうことも書いていただいてますので、もう1回研修していただいたりとか、それからよりもっと積極的にいろんな訓練のときとかいざ避難情報が出たときにいろんな通信手段を発揮できてますので、ここの地区と入れたときには、もう登録してる方、パッとこの人だとかっていう形でメールが行けるようにしたりとか、そういうふうにしなきゃいけないなというふうに思っておりますので、ご提案をいただきましたので、本当に今積極的に活動していただいている防災士の方を初めとしてですねせっかくみんなその気持ちがあって、いろいろ資格もとっていただいてると思うので、そういう活動をもっと活発になっていけるようにしたいなと、思っております。ありがとうございます。
○会長	大変ありがとうございました。私どものこの防災士の会、面倒見ていただいて、本当にも今後は楽しみな皆さんでございます。もうそれぞれに各地区で本当に活動してくださっていて、私なんかも教わるようなことがたくさんあるような感じなんです。私は挨拶担当と思っておりますので、あとは皆さんにお任せしてどんどん意見をいただいて、これからも皆さんと一緒に活動できればと思っております。何

○市長	よりも私どものその活動には、やっぱり市の協力、大変重要でございますので、やっぱり今、今、何となく私どもの会っていうのが、なんか知れてきて、はい。来ているので、やっぱり、これからも倉敷市の防災推進課と一緒になってこんなことしてるんですっていうのを、どんどんアピールして、はい。やっぱり地区の人に、やっぱりまだまだ危機意識ちょっとまだ薄い方がいっぱいいらっしゃるので、そういうところからの掘り起こし、それと、それがもう自主防災ができている地域もあるし、やっぱりこうね、いろいろ差があるので、それに対応して、私たちも一生懸命寄り添って頑張っていきたいと思いますので、はい。これからもご支援よろしくお願いいたします。 それぞれの立場からいろいろなご意見をいただきまして、大変ありがたく思いますし、今64名おられますよね。倉敷市の中で、もう一番の最大勢力として、取り組みをしてくださっている皆さん、頼りにしておりますので、これからもぜひ一緒に災害に備えるまちづくりに向けた活動を、お願いできればと思っております。本当に皆様本日はありがとうございました。